

機関番号：34315

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20520538

研究課題名（和文）二極化する英語学習者の支援システムの開発：オートノミー・リソース・センターの構築

研究課題名（英文）Establishing an Autonomy Resource Center

研究代表者

クリップス アントニー（CRIPPS ANTHONY）

立命館大学・経済学部・教授

研究者番号：20352437

## 研究成果の概要（和文）：

本研究の目的は、生徒の自主性を高めることを目的としたオンライン・リソース・センターの効果を計ることである。オンラインプラットフォームを作成し、音声や映像を含む TOEIC テスト用練習ファイルや、経済学に関する教材など、英語の自主学習のための教材を多く揃え、教師と生徒に、生徒の英語学習の向上・学習の自立性への効果について評価をしてもらった。生徒・教師は教材に対し共に高い満足を示し、改善点については教師と生徒どちらも、グループディスカッション機能や、チャット、ディスカッションモードの使用追加を挙げ、これらは実際後に追加を行った。ARC は自立した学習法・目標の設定だけでなく、学習内容重視型の学習（経済学）とテスト対策としての学習、どちらにおいても生徒の英語力に効果を上げることが出来た。

## 研究成果の概要（英文）：

This research project examined the effectiveness of an online resource center in encouraging student autonomy. An online platform was created with numerous self-study English resources and materials related to economics. Students and teachers were asked to gauge the effectiveness of the materials in terms of improving the students' English language learning and their sense of learner autonomy. They reported high levels of satisfaction with the platform and the materials which were created. The ARC project was successful in that it supported independent learning and the materials encouraged students to set their own learning goals.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	1,900,000	570,000	2,470,000
2009 年度	500,000	150,000	650,000
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：言語

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：教育工学、教材、教育メディア一般、ラーナーオートノミー

## 1. 研究開始当初の背景

この研究は 2008 年から 2011 年に渡り行った。

本学の経済学部の教授により小規模の研究チームを作り、自主学習方法を複数の方法より取り入れ、独立した学習法を行えるオートノミーリソースセンターを制作した。より多くの教材を設定することによる効果を生徒と教師に評価をしてもらった。

## 2. 研究の目的

この研究の目的は学習者の自主性を高めるオンラインリソースセンターを制作し、効果を計ることである。

## 3. 研究の方法

質的にまた量的に重視したデータを集めた。生徒にはTOEICの点数と英語力を上げる効果についてオンラインアンケートに答えてもらった。アンケートは生徒と教師共に行い、また、その中から複数名オンライン教材の効果についてのインタビューも行った。

## 4. 研究成果

私達研究チームは生徒と教師から得たARCの教材について、フィードバックを参考に研究分析を行った。教師(7名)の意見はオンライン調査集計サイトと半構造的インタビューにより集計を行い、また回答についてはグランディッド・セオリー・アプローチ(GTA)に基づき符号化し、分析を行った。彼らはARCにおける30分間のビデオ講義について、内容重視型(コンテンツ・ベース)ディスカッションと技術重視型(スキル・ベース)学習に対して共に効果的な教材であると発言し、また学習に対して意欲の高い生徒については、特にARCの教材を魅力的に感じる者が多く見られ、満足度も高かったのではないかとという見解があった。「ARCに時間を使い努力をした生徒は、そこから大きな成果を得ることが出来、良い成績を残

すことが出来た」という意見もあり、この様にARCの教材について役立っていると感じた教師はとても多かった。

また、生徒達からもオンラインアンケートにより教材についての意見を集め、当初の教材はARCを使用したことのある2組の国際経済学の上級クラスの生徒たち(32名)

(TOEICの点数が500~700点の生徒達)の学習ニーズに合っていたため、調査の対象として選出した。

結果、大多数の生徒達の反応はとても良く、講義の前から経済学について話す教授に対して好感を示す生徒も多数いた。しかし30分間に渡り行われたアメリカ人教授による講義に対しては違った反応を持つ者が多く現れた。数名の生徒は講義に対して「難しすぎる」、「長すぎる」と感じ、教授の話し方が「速すぎる」と不満を示すものもいた。

しかしこれらの意見については中級クラス(TOEICテストの点数が500-600点代)の生徒に見られたのだが、中上級クラス(TOEICテストの点数が600点以上)の生徒にはそのような状況は見られず、生徒の英語力の違いもこの様な意見に反映していたのではないかと思う。

本ARC研究チームは彼らのフィードバックを受け、以前の教材を改訂し、新たな構成をARCに施した。当初出た意見の中で、数名の教師がARCに対しモデルとなるプレゼンテーションをビデオに撮り、追加することを提案した。そしてその結果、プレゼンテーションの効果的または非効果的な例をARCに加えることとなった。

また生徒たちのプレゼンテーションについても、生徒自身のプレゼンテーションと他の同級生達との比較を行える様にするため、ARCに生徒によるプレゼンテーション例も

追加した。そしてオンラインフォーラムにより、互いのプレゼンテーションについてオンライン上で意見交換を行い、彼らのプレゼンテーション力を高めることが出来た。またARCはTOEIC用のリスニング実例教材や、様々な種類の経済学関連のビデオ、中級クラスの生徒達のリスニング力を上げるためのARC研究チームによるリスニング用文章など多くの自主学習に役立つリスニング用のファイルについても更に追加を行い、その機能を拡げることが出来た。

オートノミーとは自立性を意味するが、学習における自立とは孤立により育成されるものではなく、社会的な相互作用により成り立つものである。この観念は現在のARCの改良点であり、オンラインジャーナルまたはコミュニケーションとライティングの講義における対話方式によるフィードバックの教材追加、そしてムードルプラグインによるチャットやフォーラム機能の使用増加などに反映している。

また、社会構成主義的哲学から、生徒達はこれらのオンライン上の追加機能により、他の生徒や教師との間に起こる同期的なまたは非同期的な相互作用を行い合い、彼らの基礎知識を拡げることが出来たのではないかと思う。

ARCによってどれだけ学習における自主性が助長されるのかについてはまだまだ調査の必要性があるが、教材を使用した大多数の生徒は「自主学習に役立っている」と感じ、「自分がしたい勉強」を行うことが出来ると答えていた。

そして実際にTOEICテストを受ける前には音声・映像ファイルを使用し、リスニング力を高めていたと発言していた生徒が多数存在していた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4件)

Cripps, A.C. (2010). Innovation and the ARC: Experimentation, evaluation and expansion. The 3<sup>rd</sup> CELC International Symposium (オンライン学会会議録). シンガポール大学.(シンガポール)(査読有)

Cripps, A.C. (2009). Developing ESP Course Material for International Economics Students. The 14<sup>th</sup> Pan-Pacific Applied Linguistic Conference. PAAL(査読有). pp135-pp138

Cripps, A.C. (2009). Building the ARC: Creating an Autonomy Resource Center. The 4<sup>th</sup> Independent Learning Association Conference(オンライン学会会議録). Hong Kong University Press.(査読有)

Cripps, A.C. (2008). Building the ARC: Creating an Autonomy Resource Center. The 3<sup>rd</sup> CLS International Conference(学会会議録). シンガポール国立大学. P.139-P.147. (査読有)

[学会発表](計 6件)

Cripps, A.C. (2010). Innovation and the ARC: Experimentation, evaluation and expansion. The 3<sup>rd</sup> CELC International Symposium Conference. 2010年5月27日. シンガポール大学(シンガポール)

Cripps, A.C. (2009). Expanding the ARC: Is there a place for CMC? The 1<sup>st</sup> Language Learning in Computer Mediated Communities (LLCMC) Conference. 2009年10月13日、ハワイ大学. (ハワイ)

Cripps, A.C. (2009). Developing ESP Course Material for International

Economics Students The 14<sup>th</sup> Pan-Pacific Association of Applied Linguistics Conference. 2009年8月2日. Kyoto Conference (Japan).

Cripps, A.C.(2009). Building the ARC: Creating an Autonomy Resource Center The 4<sup>th</sup> Independent Learning Association Conference. 2009年6月4日. Hong Kong Polytechnic University(香港)

Cripps, A.C.(2008). Media Management: Weaving Electronic Media into an ESP Course. The 3<sup>rd</sup> CLS International Conference. 2008年12月5日. シンガポール国立大学(シンガポール)

Cripps, A.C.(2008). Looking for the Lost : Teachers Views on an International Economics ESP Course. The 13<sup>th</sup> Pan-Pacific Association of Applied Linguistics. 2008年8月22日. ハワイ大学(ハワイ)

〔図書〕(計 1件)

Cripps, A.C.(2011). Developing the ARC: Creating an Online Autonomy Resource Centre. ILAC 2009. Bruce Morrison (Ed.). Hong Kong University Press. (印刷中).

## 6 . 研究組織

### (1)研究代表者

クリップス アントニー  
(CRIPPS ANTHONY)  
立命館大学・経済学部・教授  
研究者番号 : 20352437

### (2)研究分担者

清水 裕子 (SHIMIZU YUKO)  
立命館大学・経済学部・教授  
研究者番号 : 60216108

野澤 健 (NOZAWA TAKESHI)  
立命館大学・経済学部・教授  
研究者番号 : 30198593

パン ヴァージニア (PENG VIRGINIA)  
立命館大学・経済学部・教授  
研究者番号 : 90278474